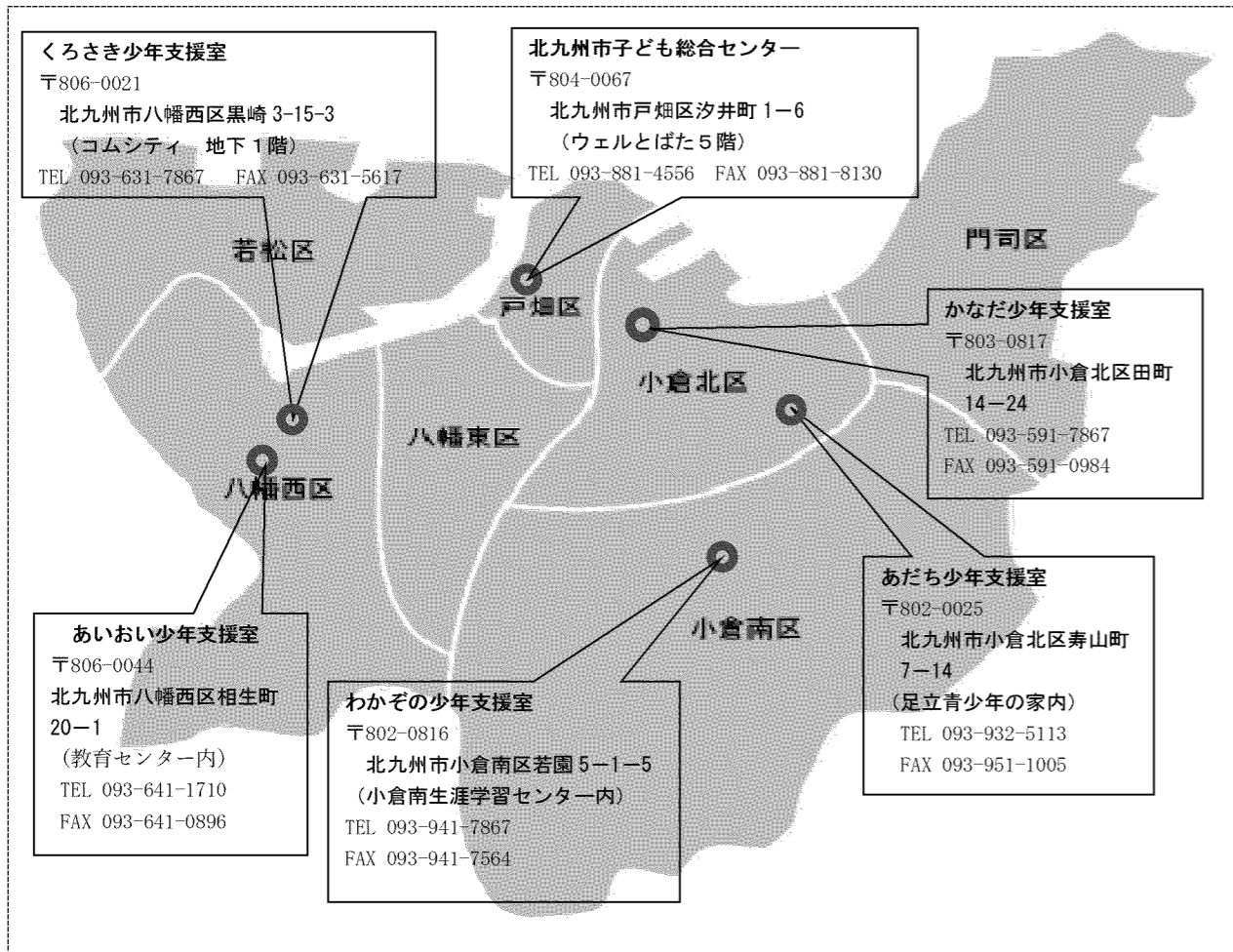


適応指導教室の機能拡充及び「あだち少年支援室」の廃止について

【資料1：少年支援室の概要】



	あだち・あいおい (2室)	かなだ・わかぞの・くろさき (3室)
機能	適応指導教室	少年補導センター
対象	心因性で不登校の小中学生	非行少年や不登校・いじめ・進路などで悩む少年 (20歳未満)
目的	学校への復帰支援	学校・社会への復帰支援
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> 小集団による学習指導 (4クラス) 野外活動、スポーツ、ものづくりなどの創作活動 等 保護者支援 	<ul style="list-style-type: none"> 自主学習の支援 (個別指導) 野外活動、スポーツ、ものづくりなどの創作活動 等 保護者支援

【資料2：少年支援室 (5室) の利用状況】

		H24	H25	H26	H27	H28	H29
適応指導教室	あいおい	66	75	72	64	79	89
	あだち	64	55	54	37	29	39
少年補導センター	かなだ	161	93	66	69	82	84
	わかぞの	108	120	111	97	92	110
	くろさき	102	117	107	77	65	75
5室合計		501	460	410	344	347	397

利用者の内訳 (H29年度)

2室合計 128人
全て心因性で不登校の小中学生

利用者の内訳 (H29年度)

3室合計 269人			
不登校の小中学生※	不登校の高校生	所属のない少年 (高校中退等)	非行少年
236人 (87.7%)	27人 (10.0%)	5人 (1.9%)	1人 (0.4%)

※主に心因性以外の集団不適応等による不登校

【資料3：少年支援室の課題】

適応指導教室 (2室) の課題	少年補導センター (3室) の課題
<ul style="list-style-type: none"> 心因性の不登校に限定していることや個別指導を実施していないことから、心因性以外の不登校や集団活動に馴染めず不登校となった児童生徒に対応できていない。 「あだち」は、交通の利便性が悪く、不登校の子どもにとって通所のハードルが高い。また、近年、利用者が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 設立当初は非行防止を目的としていたが、現在は、非行少年の利用はほとんどない。 不登校の小中学生が8~9割を占め、実態としては適応指導教室と同じ役割を担っている。 適応指導教室ではないため、同じ不登校であっても通学にかかる交通費が就学援助の対象とならない。

【資料4：少年支援室の機能拡充（案）】

